

なめがたでキラリ輝く「ひと」

女性消防団員らで、市民向けに「防災〇×クイズ」を実施。分かりやすく防災を学べると評判。行方ふれあいまつり会場



えびさわ ふみえ 海老澤 文江さん (62歳)

Profile

行方市消防団女性部長。鹿行地区 MC 応急手当指導員。NPO 佐原の大祭振興協会監事。ほかにもさまざまな役職を務める。女性消防団員が女性目線でまとめた「自分にもできる防災」を伝え、身近な防災を普及させている。宇崎在住。

「玄関では靴をそろえておきましょう。親がこれをやると、黙っていても子どもがまねしてくれれますよ。会議などでスリッパに履き替えるときはマイシユーズを持参して。運動靴なら、いざというときすぐに逃げるすることができます。自分の身は自分で守るための第一歩です」と、すぐに行方市消防団女性部長の海老澤文江さんです。

海老澤さんは、千葉県香取市内のソフトウェア開発会社に勤務する傍ら、佐原の大祭にボランティアとして約30年携わってきました。

「佐原にとって、いわゆる『よそ者』『若者』『ばか者』である自分が祭りの運営に関わることで、第三者としてその地域を見ることができた」と言う海老澤さん。自分が住んでいるところ、特に良いところは見えていないものが多いと感じていました。そして、このボランティアで多くの人たちと出会い、助けられてきた経験を地元で生かそうと考え、まずは行方市観光協会のボランティアから、そして平成23年4月に、行方市消防団に女性団員として入団。防災知識の普及に努めています。

「現在、女性消防団員は13人で活動しています。とにかく自分の身を守るためには、普段の毎日の生活が大切です。私たちが伝える防災を自分の知識として、市民一人一人が心に留めて生活してくれたらうれしいですね」

昨年から今年にかけて実施された、なめがたエリアテレビの「地域アナウンサー養成講座」。防災知識を市民に広めるため、この講座で「伝える」ことを学んだ海老澤さん。全課程を修了

し、このたび「地域アナウンサー」に任命されました。「消火器の使い方や、けがをしたときの止血方法など、小さな情報を『細く長く』伝えていきたい」と意気込みます。「私たち女性消防団員が考える身近な防災を実践してくれている人を見かけると、うれしく思います。先ほどお話しした『スリッパではなくマイシユーズ（運動靴）で』を、地域アナウンサー講座の時に話ししたら、さっそく受講生仲間が実践してくれました」と笑顔で話します。

「これからも、女性消防団員の主たる活動である高齢者宅訪問を充実させ、高齢者を見守るとともに、地域づくりのために頑張っている若者の活動を支えていきたいと考えています」

海老澤さんの「防災ちょこっとアドバイス」 玄関の「靴」は、そろえておきましょう！



靴をそろえておかないと、災害が発生した際、逃げるのに約3秒の差が生じます。

市報なめがた平成30年9月号「防災特集」より

スマホでもっと楽しめる！市報なめがた デジタルブック！

▼市報に登場するこのマークに注目！



市報に掲載されていない画像や動画をご覧いただけます。右のQRコードから無料アプリ(カタボケ)でご覧ください。



デジタルブックは10言語に対応



※対応言語：日本語、英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語、タイ語、ポルトガル語（ブラジル）、スペイン語、インドネシア語、ベトナム語（※ベトナム語は音声読み上げ機能には対応していません。）

「市報なめがた」は、公共施設等にも配置しています。

【市報配布に関するお問い合わせ】

総務課（麻生庁舎） ☎ 0299-72-0811

スマートフォンをお持ちの方は、こちらから市公式ホームページをご覧ください。

